

連携だより

令和8年

4 月号

令和8年4月1日発行

独立行政法人 国立病院機構
呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
0823-22-3111(代)

紹介予約専用
TEL 0823-22-3816
FAX 0823-32-3070

URL <https://kure.hosp.go.jp>

理念 
思いやりのあるやさしい誠実な医療を提供します



4月の花／サクラ

— 今月号のトピックス —



- 4月より診療予約申込書が新しくなります 1
- MRI 装置更新のお知らせ 2
- 入退院支援センターって何するの? 3
- 治験管理室 NEWS (治験に関する疑問 Q & A) 4・5・6
- 5月特別講演会のご案内 7
- 令和8年度 地域医療研修センター特別講演会予定表 8

4月より診療予約申込書が新しくなります

平素より呉医療センター地域医療連携室の運用にご理解・ご協力頂きまして誠にありがとうございます。前方連携では、スムーズに診療を受けて頂けるように、診療や検査予約、転入調整を行っておりますが、さらに迅速に対応できるように手続きの簡素化も含め改善に取り組んでいます。

この度、4月1日より内視鏡内科と消化器内科を1つの診療科にまとめ「内視鏡内科・消化器内科」と名称を変更しました。診療予約申込書の希望診療科の名称も新しい名称に変更しましたのでお知らせします。(別紙折り込みで入れています)

従来の診療予約申込書での予約も可能ですが、新しい診療予約申込書を今後ご利用して頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願いたします。

MRI 装置更新のお知らせ

中央放射線センター部長 豊田 尚之



▲装置外観

このたび呉医療センターでは、MRI装置の更新を行いました。今回導入した装置はフィリップス社製「Ingenia Ambition 1.5T」であり、4月より稼働していますのでご報告します。

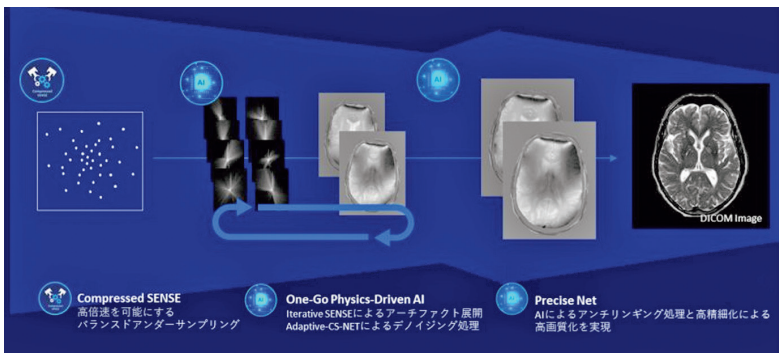
本装置は、フィリップスが提案する次世代MRIの象徴ともいえるモデルであり、特にBlueSeal（ブルーシール）マグネットによる“ヘリウムフリー運用”が最大の特徴です。MRIは強力な磁石を使って体の内部を撮像する装置ですが、磁石を冷やして超電導状態を維持するために従来の装置では約1,500リットルの液体ヘリウムが必要でした。新しい装置ではわずか

7リットル（約99%の省エネ化）で稼働することができ、環境にも優しい仕組みとなっています。これにより環境負荷の低減に加え、課題となっていたヘリウム補充の必要性がなくなり、クエンチ（冷却トラブル）発生時のリスクも大幅に軽減されます。私たちにとって装置の保守性・安全性が飛躍的に向上しており、特にヘリウム供給が不安定化する昨今の状況において、安定した運用を継続できる点は大きな意義があります。また、開口径（検査時に入るトンネルの直径）は圧迫感の少ないワイドボアを採用しており、閉所が苦手な方や体格の大きい方でも検査を受けやすくなっているため、より安全に快適な検査環境を提供できるようになりました。

さらに、画像再構成にはAIディープラーニング（人工知能）技術を応用したものを搭載しており、効率的に高品質な画像を得ることが可能となりました。この新技術の他にも多くの機能がおり検査スループットの向上も期待でき、患者さんの負担が軽くなるだけでなく、スタッフの作業効率も向上しています。結果として、より多くの患者さんにスムーズに検査を提供できる体制を整えることが可能となりました。

今回の装置更新に合わせて更衣室のリニューアル工事も行いました。更衣室エリアを拡張し、安心して更衣を済ませたうえで検査に臨んでいただける環境づくりを心がけています。

新装置稼働までの期間、地域の医療機関の皆さまには検査予約が取りづらい状況となり、ご不便をおかけしました。院内外のご理解とご協力により、無事に新装置の稼働を開始することができました。今後とも地域医療の質向上に努めてまいりますので、引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



▲ AI ディープラーニング画像再構成の概略図（フィリップス社提供）



▲更衣室フロア

【紹介予約専用電話】のお知らせ

外来紹介予約に関するお問い合わせ

地域医療連携室直通

TEL : 0823-22-3816
FAX : 0823-32-3070

その他のお問い合わせ

病院代表電話

TEL : 0823-22-3111

入退院支援センターって何するの？

当院には入退院支援センターがあります。入退院支援センターでは入院の予定がある患者さんを対象に、安心して入院生活を送ることができるように看護師、栄養士、薬剤師、事務員など多職種で説明を行っています。

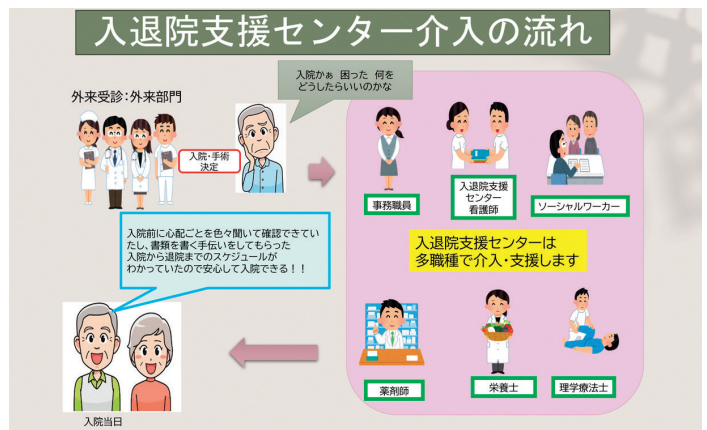
最初に事務員が入院案内のパンフレットを使用し、入院に必要な書類や病院の規則についての説明を行います。その後、看護師が入院の予定や手術前後の予定を説明し入院前の患者さんのADL、自宅での様子、サポート体制など必要な情報を確認し、病棟の看護師と情報共有し連携をとっています。

手術や治療によっては内服中の薬やサプリメントを中止する必要があるため、入院前に薬剤師が内服薬を確認し、中止薬の説明を行います。

食物アレルギーや栄養状態についてサポートが必要な方には、管理栄養士が患者さんから聞き取りを行い、入院中の食事について安全な食事を提供できるようにしています。

また、がんの治療について不安がある方、公費制度が知りたい方にはがん相談窓口のご案内をし、相談内容によりソーシャルワーカーや緩和ケア認定看護師と連携をとり、患者さんの困っていることを解決できるように努めています。

多職種で入院前の患者さんと関わらせてもらうことにより、患者さんやご家族が入院生活について不安に思っていることを把握し、解決できるようにサポートしています。入院される病棟と患者さんの情報を共有することで、入院後も患者さんの個別性にあった看護を継続的に提供し、安心して入院生活を送っていただけるように取り組んでいます。



入退院支援センターでの入院前説明



入退院支援センターでの入院前説明



救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者さんのご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、**「救急外来受付」まで電話でご連絡**いただきますようお願い申し上げます。

救急外来
受付直通

TEL : 0823-23-1020
FAX : 0823-21-7474

治験に関するよくある誤解などの疑問と解消

治験に関する情報は多岐にわたりますが、正確な理解を妨げる誤解も少なくありません。ここでは、治験を正しく理解するために、まず代表的な誤解を取り上げます。

よくある代表的な治験の誤解

1. 「実験台にされるのでは？」という不安



治験は専門的な臨床試験であり、一般の人にはその仕組みが見えにくい
ため「危険な実験!?!」「人体実験!?!」という誤解を生じることがあります。



実際には、以下のような仕組みで安全性が確保されています。

- ・ 治験審査委員会 (IRB) の審査
治験が安全・倫理的・科学的に適切かどうかの審査
- ・ 厳格な基準である GCP (Good Clinical Practice) に基づく実施

(※詳細については、NewsVol.6「治験のルール～GCP って何?」をお読みください。)

★非臨床試験：動物や細胞などを用いて薬効薬理作用、生体内での動態、有害な作用などを調べる試験。(薬効薬理試験、安全性試験、薬物動態試験など)

→医薬品候補化合物の評価を試みる段階

臨床試験：実際に人に投与し、効果があるか、安全性に問題がないか、適切な用量はどの程度かなどを確認します。

治験は「危険な実験」ではなく、倫理的・科学的に厳しく管理された臨床試験です。

2. 「副作用が怖い」「危険性が高いのでは？」という懸念



新薬を使う治験では、未知の副作用への不安から「怪しい」「怖い」という印象を持たれがちです。



実際には、以下のプロセスを経て安全性が確保されています。

- ・ 事前に安全性試験 (毒性試験、がん原性試験、生殖発生毒性試験など) で安全性を確認
- ・ それまでに行われた非臨床試験データの慎重な検討

重篤な副作用、肝臓、腎臓、心臓への影響などの強い毒性、発がん性や催奇形性の可能性など、被験者に危険を及ぼす可能性が高いと判断された場合には、臨床試験には進まない仕組みになっています。

3. 「高額な協力費=危険の対価？」という誤解



試験により異なりますが、通常は1来院7,000円の負担軽減費が支払われます。

なかでも特に健康な成人が対象となる第I相試験 (初期段階) の治験では、従来の負担軽減費よ

り高く設定される場合があります。そのため、「危険だから高いのでは？」と誤解されることがあります。



実際には、負担軽減費は以下のような“参加者の負担を軽減する目的”として支払われます。

- ・ 治験参加によって生じる日常生活の制限や、入院・通院に伴う時間的拘束
- ・ 経済的負担（交通費や昼食代など）の軽減
- ・ 多数の検査に対する対価

負担軽減費は治験に参加することで生じる時間的・身体的負担および交通費などのご負担を軽くするためにお支払いするものです。

4. 「説明されていないことがあるのでは？」という不信感



治験参加前の説明が不十分であったり、専門用語が多く理解しづらい場合「何か隠しているのでは？」と感ずることがあります。



実際には、GCP 第 51 条に基づき、以下の説明が義務付けられています。

- ・ 治験の目的
- ・ 治験の方法
- ・ 想定されるリスク
- ・ 他の治療方法
- ・ 参加しない場合の扱い など計 17 項目（ガイダンスでは 18 項目）の説明規定あり

インフォームドコンセントにより、目的・方法・リスクなどが事前に丁寧に説明されます。

5. 「途中でやめられないのでは？」という誤解



治験に参加すると「最後まで続けないといけない」と思われがちです。



実際には

- ・ 参加者の同意撤回への配慮
- ・ 中止しても不利益を受けないための保護

(※4.と 5.の詳細は NewsVol.5 「～インフォームドコンセントの重要性～」をお読みください。)

治験は強制ではなく、参加者の自由意思が最優先されます。また、安全性の観点から医師判断での中止や治験依頼者・規制当局等からの要請による中止もあり得ます。

6. 「治療は特別な人しか参加できない」という誤解



「健康な人しか参加できない」、「若い人しか参加できない」などの誤解があります。



実際には

- ・ 治験ごとの対象条件（年齢・病気の状態など）の相違
- ・ 健康成人が対象の治験は一部の第 I 相試験のみ
- ・ 条件が合えば参加できる可能性

治験の対象は治験ごとに異なり、患者さんが対象となる治験がほとんどです。

7. 「治験は全て新薬の試験」という誤解



治験＝新薬のテスト、というイメージが強いですが、



実際には

- ・既存薬の新たな使い方を調べる治験（適応拡大）
- ・投与量や投与方法の改善を目的とした治験（新用法・用量）
- ・ジェネリック医薬品やバイオ後発品の開発のための試験（生物学的同等性試験）

治験は新薬だけでなく、既存薬の新しい使い方や投与方法の改善も含まれます。

8. 「治験は病院ではなく企業が管理している」という誤解



「製薬会社が勝手に実施している」という印象を持つ人もいます。



実際には

- ・実施は医療機関（病院/クリニック）
- ・製薬企業は治験薬の提供やデータ管理を担当
- ・医師が参加者の安全を最優先に管理

治験の実施主体は医療機関であり、製薬企業は薬の提供やデータ管理を担当します。

9. 「治験は医師だけが関わる特別な業務」という誤解



「治験＝医師だけの専門作業」というイメージを持つ人がいます。



実際には

- ・日常業務の延長線上に治験が位置づけられる多くの職種の存在
- ・医療機関全体で支える体制の充実

治験は医師だけでなく、看護師、薬剤師、CRC、事務職など、多職種が連携して進めるチーム医療として実施されています。

🔍 まとめ

治験には「危険」「実験台」「特別な人だけが参加できる」など、さまざまな誤解がつきまといまいます。しかし実際には、厳格なルールと医療機関による管理のもと、安全性と参加者の権利がしっかり守られています。そして、正しい情報を知ることによって、不安や誤解を減らし、より安心して治験について理解・検討できるようになります。

2026年3月

呉医療センター治験管理室 発行



膝関節外科の現在と 20年後の展望

日時 2026年5月26日(火)18:30~19:30

場所 呉医療センター
管理棟4階 地域医療研修センター1・2

座長 呉医療センター 臨床研究部長
整形外科科長
山崎 琢磨

講師 広島大学大学院 医系科学研究科
整形外科 教授

安達 伸生 先生



膝関節外科は広い学問領域を包含し、機能解剖、各種画像診断、保存療法、手術療法など多岐にわたり、臨床および基礎研究が進展しています。膝前十字靭帯（ACL）再建術では日本を中心に大きく発展した解剖学的二重束再建術、ACL remnantを温存した再建術などが広く行われています。また、人工膝関節置換術（TKA）ではNavigationやRobotic systemの普及により、より低侵襲で正確な手術が可能となっています。本発表では最近の手術手技の進歩と将来展望について述べます。

◆当講演会は、院内外を問わず、医療関係者すべての方を対象とさせていただきます。お気軽にご参加ください。

連絡先 〒737-0023 呉市青山町3番1号
国立病院機構呉医療センター 管理課
TEL (0823) 22-3111 ホームページ：<https://kure.hosp.go.jp>



令和 8 年度 地域医療研修センター特別講演会予定表

No	区分	日付	講師職名	講師氏名	座長
1	特別	令和 8 年 5 月 26 日 (火) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 整形外科学 教授	安達 伸生	整形外科科長 山崎 琢磨
2	特別	令和 8 年 6 月 17 日 (水) 18:30 ~ 19:30	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 形成再建外科学分野 教授	高成 啓介	形成外科科長 植村 享裕
3	特別	令和 8 年 7 月 3 日 (金) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 腎臓内科学 教授	正木 崇生	腎臓内科科長 高橋 俊介
4	特別	令和 8 年 9 月 18 日 (金) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 ゲノム医療センター・ 遺伝子診療科 教授	檜井 孝夫	調整中
5	特別	令和 8 年 10 月 6 日 (火) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 視覚病態学 教授	坂口 裕和	眼科科長 望月 司
6	特別	令和 8 年 10 月 23 日 (金) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 外科学准教授・診療教授	上村 健一郎	外科系診療部長 首藤 毅
7	特別	令和 8 年 11 月 11 日 (水) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 皮膚科学 教授	田中 暁生	皮膚科科長 石川 哲三
8	特別	令和 9 年 1 月 29 日 (金) 18:30 ~ 19:30	広島大学大学院 医系科学研究科 精神神経医科学 教授	岡田 剛	精神科科長 大盛 航

※院外からの参加をお待ちしております。



〒737-0023 広島県呉市青山町3-1

独立行政法人 国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

地域医療連携室

吉田 成人

松生 理

折本 陽一

久保田益亘

西岡 初子

(紹介予約専用電話)

TEL : (0823) 22-3816

FAX : (0823) 32-3070